

四半期報告書

(第23期第2四半期)

株式会社 シーティーエス

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	5
1 【株式等の状況】	5
2 【役員の状況】	7
第4 【経理の状況】	8
1 【四半期財務諸表】	9
2 【その他】	15
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	16

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月9日
【四半期会計期間】	第23期第2四半期(自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日)
【会社名】	株式会社シーティーエス
【英訳名】	C T S C o . , L t d .
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 横 島 泰 蔵
【本店の所在の場所】	長野県上田市古里115番地
【電話番号】	0268-26-3700(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員 管理部長 佐 藤 真 一
【最寄りの連絡場所】	長野県上田市古里115番地
【電話番号】	0268-26-3700(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員 管理部長 佐 藤 真 一
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第22期 第2四半期累計期間	第23期 第2四半期累計期間	第22期
会計期間	自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高 (千円)	1,841,822	2,082,435	3,876,767
経常利益 (千円)	187,702	256,398	439,438
四半期(当期)純利益 (千円)	108,954	155,275	262,404
持分法を適用した 場合の投資利益 (千円)	—	—	—
資本金 (千円)	425,996	425,996	425,996
発行済株式総数 (株)	28,000	28,000	28,000
純資産額 (千円)	1,928,770	2,160,199	2,063,547
総資産額 (千円)	3,625,537	4,259,544	3,986,486
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	40.13	57.79	97.54
潜在株式調整後1株当たり四 半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	1,500	2,000	3,500
自己資本比率 (%)	53.2	50.7	51.8
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	191,270	257,786	632,608
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△35,630	△36,850	△114,127
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△325,100	△182,246	△469,830
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	722,449	979,250	940,561

回次	第22期 第2四半期会計期間	第23期 第2四半期会計期間
会計期間	自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	23.79	32.10

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 当社は、平成24年10月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

当社は、適切な流動性の維持、事業活動のための資金確保及び透明性があり健全なバランスシートの維持向上を財務方針と掲げ取り組んでおります。

(1) 業績の状況

当第2四半期累計期間（平成24年4月1日～平成24年9月30日）におけるわが国経済は、各種政策効果等を背景に内需関連産業などにおいて穏やかな持ち直し傾向が見られるものの、欧州債務問題や海外景気の下振れの影響に加え、円高・輸出減など多くの懸念材料により、引続き厳しい経済環境となっております。

当社の主要顧客である土木・建設業界は、東日本大震災復旧・復興のための建設投資増加が見込まれるものの、全国的に公共投資が前事業年度より縮減したことに加え、民間投資に関しましても、企業の設備投資の本格化には至っておらず、引続き厳しい環境で推移いたしました。

このような状況のなか、当社におきましては、前事業年度から4カ年を対象にした中期経営計画を実施しております。その中核となる方針は、「システム・測量計測事業を中心に「建設ICT」分野の専門企業として全国ネットワークを構築する」であります。この方針を基に事業を着実に展開してまいりました。

当第2四半期累計期間の業績につきましては、主力事業のシステム事業及び測量計測事業に加え、ハウス備品事業も堅調に推移したことなどにより、売上高は前年同期を上回る実績となりました。

利益面は、主力事業を中心に人員増加策などを実施したことにより販売費及び一般管理費が前年同期に比べ増加いたしました。売上高の伸長とレンタル原価等の削減に努めた結果、売上総利益が増加したことにより、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに前年同期を上回る実績となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の実績は、売上高2,082,435千円（前年同期比13.1%増）、営業利益267,019千円（前年同期比40.8%増）、経常利益256,398千円（前年同期比36.6%増）、四半期純利益155,275千円（前年同期比42.5%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

<システム事業>

当事業につきましては、システム機器及びアプリケーション等のレンタル・販売に関して、平成24年4月に広島支店、平成24年9月に浜松支店を開設し、営業エリアの拡大、営業活動の強化に加え、既存の営業拠点におきましても、新規顧客の開拓等積極的な営業活動を展開した結果、受注が堅調に推移し、当事業の売上高は904,226千円（前年同期比23.5%増）となりました。利益面は、売上高の伸長により売上総利益が増加したことに伴い、セグメント利益（営業利益）は143,506千円（前年同期比28.4%増）となりました。

<測量計測事業>

当事業につきましては、測量機器及び計測システム等のレンタル・販売に関して、中期経営計画の方針に基づき「建設ICT」分野に注力した結果、受注を順調に確保することができ、当事業の売上高は436,012千円（前年同期比2.3%増）となりました。利益面は、売上高の伸長により売上総利益が増加したことに加え、販売費及び一般管理費の削減にも努めた結果、セグメント利益（営業利益）は31,070千円（前年同期比15.8%増）となりました。

<ハウス備品事業>

当事業につきましては、建設現場事務所用ユニットハウス及び什器備品等のレンタル・販売に関して、震災関連工事等の増加に伴い需用環境が改善され、レンタル受注量が堅調に推移したことから、当事業の売上高は459,475千円（前年同期比15.4%増）となりました。利益面は、売上高の伸長と徹底したレンタル原価の削減により売上総利益が増加したことに加え、販売費及び一般管理費につきましても前年同期並みに抑えられたことから、セグメント利益（営業利益）は71,686千円（前年同期比151.9%増）となりました。

<環境安全事業>

当事業につきましては、道路標示・標識及び環境・景観分野の工事並びに安全用品のレンタル・販売に関して、専門分野である道路標示工事の受注は堅調に推移いたしました。安全用品のレンタル・販売分野が前年同期を下回る結果となり、当事業の売上高は282,720千円（前年同期比0.9%減）となりました。利益面は、販売費及び一般管理費の削減に努めましたが、売上高の減少を補えず、セグメント利益（営業利益）は20,755千円（前年同期比8.4%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期会計期間末の財政状態につきましては、総資産が4,259,544千円となり、前事業年度末と比較して273,057千円増加いたしました。

流動資産は2,183,965千円となり、前事業年度末と比較して244,969千円増加いたしました。主な要因は、受取手形及び売掛金の増加70,364千円、その他流動資産の増加121,720千円によるものであります。

固定資産は2,075,579千円となり、前事業年度末と比較して28,088千円増加いたしました。主な要因は、レンタル資産の増加23,999千円によるものであります。

負債は2,099,344千円となり、前事業年度末と比較して176,404千円増加いたしました。主な要因は、支払手形及び買掛金の増加65,435千円、その他流動負債の増加110,992千円によるものであります。

純資産は2,160,199千円となり、前事業年度末と比較して96,652千円増加いたしました。主な要因は、四半期純利益155,275千円を計上した一方で、剰余金の配当53,736千円を行ったことによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は50.7%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は979,250千円となり、前事業年度末と比較して38,689千円増加いたしました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により獲得した資金は257,786千円（前年同期比34.8%増）となりました。これは主に、税引前四半期純利益256,398千円、資金支出を伴わない費用である減価償却費145,894千円による資金の獲得に対して、法人税等の支払額114,530千円が充当されたことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は36,850千円（前年同期比3.4%増）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出26,457千円、投資有価証券の取得による支出7,535千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により使用した資金は182,246千円（前年同期比43.9%減）となりました。これは、リース債務の返済128,360千円、配当金の支払53,885千円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	95,040
計	95,040

(注) 平成24年8月31日開催の取締役会決議により、平成24年10月1日付で株式分割に伴う定款変更が行われ、発行可能株式総数は9,408,960株増加し、9,504,000株となっております。

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	28,000	2,800,000	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	平成24年10月1日から単元株式制度を採用しており、単元株式数は100株であります。
計	28,000	2,800,000	—	—

(注) 平成24年8月31日開催の取締役会決議により、平成24年10月1日付で1株を100株に株式分割いたしました。これにより株式数は2,772,000株増加し、発行済株式総数は2,800,000株となっております。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年9月30日	—	28,000	—	425,996	—	428,829

(注) 平成24年10月1日をもって1株を100株に株式分割し、これに伴い発行済株式総数が2,772,000株増加しております。

(6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
有限会社横島	長野県上田市材木町2-5-22	10,000	35.7
宮沢俊行	長野県上田市	800	2.9
手塚克巳	長野県上田市	750	2.7
シーティーエス社員持株会	長野県上田市古里115	695	2.5
株式会社八十二銀行 (常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)	長野県長野市大字中御所字岡田178-8 (東京都港区浜松町2-11-3)	522	1.9
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1-1-2	400	1.4
春原由妃	神奈川県横浜市青葉区	322	1.2
有限会社輝光商事	長野県上田市中央西1-3-28	214	0.8
山下博	大阪府泉南市	200	0.7
大柴英樹	山梨県甲府市	168	0.6
計	—	14,071	50.3

(注) 上記のほか当社所有の自己株式1,132株(4.0%)があります。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,132	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 26,868	26,868	—
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	28,000	—	—
総株主の議決権	—	26,868	—

② 【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社シーティーエス	長野県上田市古里115	1,132	—	1,132	4.0
計	—	1,132	—	1,132	4.0

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	940,561	979,250
受取手形及び売掛金	※1 849,220	※1 919,585
商品	36,506	42,849
半成工事	1,555	739
原材料及び貯蔵品	9,823	14,216
その他	127,405	249,125
貸倒引当金	△26,077	△21,802
流動資産合計	1,938,995	2,183,965
固定資産		
有形固定資産		
レンタル資産（純額）	2,118	26,117
建物（純額）	263,437	257,784
土地	777,810	777,810
リース資産（純額）	865,135	879,433
その他（純額）	31,143	26,715
有形固定資産合計	1,939,645	1,967,861
無形固定資産		
投資その他の資産	44,449	42,896
投資その他の資産	64,695	66,121
貸倒引当金	△1,300	△1,300
投資その他の資産合計	63,395	64,821
固定資産合計	2,047,491	2,075,579
資産合計	3,986,486	4,259,544
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※1 532,632	※1 598,068
未払法人税等	118,239	105,493
リース債務	252,834	268,143
その他	※1 266,115	※1 377,108
流動負債合計	1,169,821	1,348,813
固定負債		
リース債務	625,362	625,809
その他	127,755	124,721
固定負債合計	753,118	750,530
負債合計	1,922,939	2,099,344
純資産の部		
株主資本		
資本金	425,996	425,996
資本剰余金	428,829	428,829
利益剰余金	1,296,361	1,397,901
自己株式	△91,383	△91,383
株主資本合計	2,059,803	2,161,343
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,743	△1,143
評価・換算差額等合計	3,743	△1,143
純資産合計	2,063,547	2,160,199
負債純資産合計	3,986,486	4,259,544

(2) 【四半期損益計算書】
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	1,841,822	2,082,435
売上原価	1,085,691	1,213,815
売上総利益	756,130	868,619
販売費及び一般管理費	※1 566,441	※1 601,599
営業利益	189,689	267,019
営業外収益		
受取利息	37	30
受取配当金	230	240
受取地代家賃	1,080	1,298
受取保険金	6,593	—
その他	785	934
営業外収益合計	8,725	2,502
営業外費用		
支払利息	8,765	12,301
その他	1,947	822
営業外費用合計	10,712	13,123
経常利益	187,702	256,398
特別利益		
固定資産売却益	1,209	—
特別利益合計	1,209	—
税引前四半期純利益	188,911	256,398
法人税、住民税及び事業税	84,231	101,880
法人税等調整額	△4,274	△757
法人税等合計	79,956	101,123
四半期純利益	108,954	155,275

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	188,911	256,398
減価償却費	128,345	145,894
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	4,319	△4,275
受取利息及び受取配当金	△267	△270
支払利息	8,765	12,301
有形固定資産売却損益 (△は益)	△1,209	—
売上債権の増減額 (△は増加)	9,334	△71,752
たな卸資産の増減額 (△は増加)	34,793	△9,919
仕入債務の増減額 (△は減少)	△118,474	65,435
その他	4,521	△9,463
小計	259,039	384,348
利息及び配当金の受取額	267	270
利息の支払額	△8,765	△12,301
法人税等の支払額	△59,271	△114,530
営業活動によるキャッシュ・フロー	191,270	257,786
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△13,089	△26,457
無形固定資産の取得による支出	△20,698	△1,877
投資有価証券の取得による支出	△3,920	△7,535
その他	2,077	△979
投資活動によるキャッシュ・フロー	△35,630	△36,850
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△45,240	—
リース債務の返済による支出	△103,477	△128,360
配当金の支払額	△176,382	△53,885
財務活動によるキャッシュ・フロー	△325,100	△182,246
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△169,460	38,689
現金及び現金同等物の期首残高	891,909	940,561
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 722,449	※1 979,250

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

※1 四半期会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第2四半期会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期会計期間末日満期手形が、四半期会計期間末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成24年9月30日)
受取手形	16,248千円	18,869千円
支払手形	82,940千円	67,428千円
流動負債・その他(設備関係支払手形)	43,408千円	4,957千円

(四半期損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
貸倒引当金繰入額	4,319千円	△1,361千円
給料及び手当	262,505千円	291,064千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
現金及び預金	722,449千円	979,250千円
預入期間が3か月を超える定期預金	—	—
現金及び現金同等物	722,449千円	979,250千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月17日 定時株主総会	普通株式	176,787	6,500	平成23年3月31日	平成23年6月20日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額は記念配当5,000円を含んでおります。

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年11月10日 取締役会	普通株式	39,927	1,500	平成23年9月30日	平成23年12月5日	利益剰余金

当第2四半期累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月15日 定時株主総会	普通株式	53,736	2,000	平成24年3月31日	平成24年6月18日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年10月31日 取締役会	普通株式	53,736	2,000	平成24年9月30日	平成24年12月7日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額	四半期 損益計算書 計上額 (注)
	システム 事業	測量計測 事業	ハウス備品 事業	環境安全 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	732,048	426,277	398,070	285,425	1,841,822	—	1,841,822
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	732,048	426,277	398,070	285,425	1,841,822	—	1,841,822
セグメント利益	111,739	26,832	28,453	22,663	189,689	—	189,689

(注) セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額	四半期 損益計算書 計上額 (注)
	システム 事業	測量計測 事業	ハウス備品 事業	環境安全 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	904,226	436,012	459,475	282,720	2,082,435	—	2,082,435
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	904,226	436,012	459,475	282,720	2,082,435	—	2,082,435
セグメント利益	143,506	31,070	71,686	20,755	267,019	—	267,019

(注) セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第 2 四半期累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月30日)	当第 2 四半期累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)
1 株当たり四半期純利益金額	40円13銭	57円79銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	108,954	155,275
普通株主に帰属しない金額	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	108,954	155,275
普通株式の期中平均株式数(株)	2,715,046	2,686,800

- (注) 1. 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 当社は、平成24年10月 1 日付で普通株式 1 株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して 1 株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

株式分割及び単元株制度の採用

平成24年 8 月31日開催の取締役会決議に基づき、平成24年10月 1 日付で株式分割及び単元株制度の採用を実施いたしました。

1. 株式分割及び単元株制度採用の目的

平成19年11月に全国証券取引所が公表した「売買単位の集約に向けた行動計画」の趣旨に鑑み、当社株式を上場している証券市場の利便性・流動性の向上に資するため、当社普通株式 1 株を100株に分割するとともに、単元株式数(売買単位)を100株とする単元株制度を採用いたします。

2. 株式分割の割合

普通株式 1 株につき普通株式100株の割合をもって分割いたしました。

3. 単元株制度の採用

1 単元の株式の数を100株といたしました。

4. 株式分割及び単元株制度採用の時期

平成24年10月 1 日を効力発生日としております。

なお、これによる影響については、「1 株当たり情報」に記載しております。

2 【その他】

第23期(平成24年 4 月 1 日から平成25年 3 月31日まで)中間配当について、平成24年10月31日開催の取締役会において、平成24年 9 月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- | | |
|----------------------|--------------|
| ① 配当金の総額 | 53,736千円 |
| ② 1 株当たりの金額 | 2,000円 |
| ③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 平成24年12月 7 日 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年10月31日

株式会社シーティーエス
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 五十幡 理一郎 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小松 聡 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社シーティーエスの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第23期事業年度の第2四半期会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社シーティーエスの平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月9日
【会社名】	株式会社シーティーエス
【英訳名】	C T S C o . , L t d .
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 横 島 泰 蔵
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	長野県上田市古里115番地
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所

(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長横島泰蔵は、当社の第23期第2四半期(自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。